

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 048	提案機関名 湘南家畜保健衛生所
要望問題名 畜産分野における産業ロボット（アシストスーツ）の活用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年、畜産は、担い手の減少・高齢化の進行等により労働力不足が深刻な問題となっている。 そのような中、国の「ロボット革命戦略会議」のロボット新戦略として、「農林水産業・食品産業分野におけるロボット活用」の「ロボット開発・導入を加速化すべき分野」に「人手に頼っている重労働の機械化・自動化」がある。農業分野における研究は「さがみロボット特区」では始まっているが、畜産分野での活用は進んでいない。 そこで、日常的な作業の中での物の積み下ろしや移動等の重労働の部分をアシストスーツで軽労化するなど、畜産分野におけるアシストスーツ活用の可能性についての検討を行ってほしい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	農業用アシストスーツは、果樹作業の棚下作業を想定した腕を上げたままの作業を補助するものや、重い荷物の持ち運びを補助するものなど、すでに農作業の作業負担軽減に活用されているものも、いくつか開発されています。 畜産技術センターでは、産業振興課と連携して前傾姿勢での作業の際に腰の負担を軽減するタイプのアシストスーツの活用について検討しています。このアシストスーツは現状では、地面（低い位置）にあるものを掴みにくい等の問題が見受けられますが、使用する場面を選ぶことで有効に利用できると考えられます。 今後、ロボット特区との連携により、アシストスーツの開発状況などについて、必要に応じて情報提供したいと思います。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			